

TAKE  
FREE

筆者のプライベート・ベスト記事公開  
&新連載「名演奏家再批評」始動！

クラシック音楽メディアのポータルサイト

# レコード芸術 The Record Geijutsu ONLINE

FREE MAGAZINE  
202602



Wilhelm Furtwängler  
(1886 ~ 1954)

## CONTENTS

02 2026年1月の特選タイトル一覧+批評抜粋

06 2025年12月15日～26年1月22日更新の記事一覧

レコード芸術 ONLINE はこちらから→



制作：「レコード芸術 ONLINE」編集部

レコード芸術 ONLINE、フリーマガジン第 6 号です。  
掲載記事 2,300 本 \* 突破！  
さらに、筆者のプライベート・ベスト記事公開、  
新連載「名演奏家再批評」始動！  
ぜひ有料会員登録をご検討ください♪

音楽之友社が運営するポータルサイト『レコード芸術 ONLINE』編集部のフリーマガジンです。第 6 回の今号には、2026 年 1 月の【新譜月評】特選タイトル一覧 + 批評抜粋、直近 1 ヶ月の記事一覧を収録しました。

本サイトは月額 1,100 円（税込）。無料コンテンツも続々。クラシック音楽メディアの芸術史を未来へつなげる批評の場、そして現在を記録・発信する情報の場として、日々更新を続けています。

\* 2024 年 10 月からの累計。新譜月評のディスクページを含む。2026 年 1 月 22 日現在

「レコード芸術 ONLINE」編集部

契約から最初 2 ヶ月間が【無料】となる「年間契約プラン」を開始しました。  
詳細は右側の QR コードから♪

レコード芸術 ONLINE はこちらから♪

→の有料会員お申込みページはこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/>

<https://recogei.ontomo-mag.com/order/>

## 【レコード芸術 ONLINE 新譜月評】 2026 年 1 月の 特選 タイトル一覧 + 批評抜粋

特選 = ダブル評を行なったもので、2 名とも「推薦」評価／筆者は敬称略、五十音順／特記のないものは通常 CD です



それぞれの批評全文 + 他の音源については、  
有料会員限定コンテンツとして  
「レコード芸術 ONLINE」上でお読みいただけます♪  
[https://recogei.ontomo-mag.com/disc\\_review/backnumber/202601/](https://recogei.ontomo-mag.com/disc_review/backnumber/202601/)

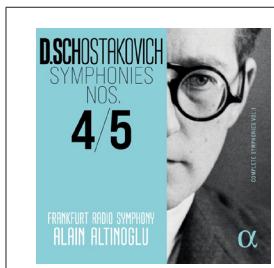
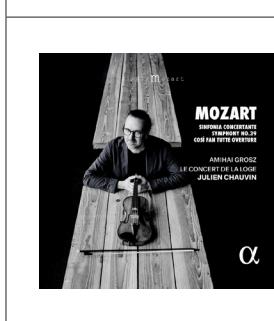
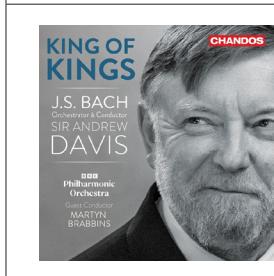
### ●オーケストラ曲



マーラー：交響曲第 1 番《巨人》  
パーヴォ・ヤルヴィ 指揮 チューリヒ・トーンハレ管弦楽団  
[アルファ (D) NYCX10558]  
♪パーヴォ・ヤルヴィは 2012 年にフランクフルト放送交響楽団とマーラーの交響曲第 1 番の映像 [C Major] を制作していて、そちらと比べて解釈としてはさほど大きな違いはないといえるかもしれない。思い入れの少ないストレートで淡泊な進め方をするかと思えば……(相場)  
♪現代の指揮者の中で、パーヴォほど独特の音色を持っている人は少ないだろう。おそらく弓圧をかなり軽めにした弦を中心とした透明感のあるサウンドは、世界中どこのオーケストラを振るときも変わらないパーヴォのトレードマークだ……(増田)



マーラー：交響曲第 7 番《夜の歌》  
アンドレア・バッティストーニ 指揮 東京フィルハーモニー交響楽団  
[デンオン (D) COCQ85650]  
♪バッティストーニにとって、マーラーは一種の標題音楽・オペラで [...] 声楽を含まない第 5 番～第 7 番においては標題性を強調するよりも、絶対音楽的侧面をより強調する指揮者が多い中……(広瀬)  
♪マーラーの交響曲第 7 番がどのような曲かということについてはさまざまな意見がある [...] 彼のこの曲に対する解釈は、夜の闇から光へ、という標題的なものだ。だが、実際に彼の行なった演奏は、絶対音楽的か標題音楽的かというような対立を超越しているように……(増田)

	<p><b>ショスタコーヴィチ：交響曲第4番、同第5番</b>          アラン・アルティノグル指揮フランクフルト放送交響楽団          [Alpha (D) ALPHA1173 (2枚組、海外盤)]</p> <p>♪ショスタコーヴィチ交響曲全曲録音の第1弾として、第4、5番をカップリングしたアルバムがリリースされた。このコンビによる演奏の特色を知りたいという向きには、まず両曲のスケルツォから聴くのがよからう……（相場）</p> <p>♪フランクフルト放送交響楽団 [...] がショスタコーヴィチの交響曲全集のプロジェクトを開始した。完成すれば同楽団初の全集となるのではないか [...] 第1弾で第4交響曲を出してくるあたり、自信のほどが窺える……（船木）</p>
	<p><b>モーツアルト：歌劇《コジ・ファン・トウッテ》序曲、協奏交響曲 K.364、交響曲第39番</b>          ジュリアン・ショーヴァン (vn, 指揮) ル・コンセール・ド・ラ・ロージュ, アミハイ・グロス (va)          [アルファ (D) NYCX10560]</p> <p>♪本録音の白眉は、なんといっても K.364 の協奏交響曲である。ヴァイオリンも同時に担当するジュリアン・ショーヴァンの目指す音楽、すなわち丁寧に細部を紡いでゆきつつも、その細部のひとつひとつに生命が宿っているような愉悦と躍動感が……（広瀬）</p> <p>♪モーツアルトの交響曲、オペラ序曲、協奏曲を組み合わせる企画の第3弾。目玉はベルリン・フィルのグロスを起用した協奏交響曲だろう。ショーヴァンのソロも同じなのだが、非常に「艶かしい」演奏を展開する……（安田）</p>
	<p><b>王の中の王～J.S.バッハ管弦楽編曲集</b>          アンドルー・デイヴィス, マーティン・ブラビング指揮 BBC フィルハーモニック          [Chandos (D) CHAN20400 (海外盤)]</p> <p>♪2024年に亡くなった指揮者アンドルー・デイヴィスは自ら管弦楽編曲を行なうことも好んでいて [...] 当盤は彼が作成したバッハ作品の編曲をディスクに収めるという企画であったが……（相場）</p> <p>♪バッハの管弦楽編曲と言われて多くの人が思い浮かべるのはストコフスキーダラウ。ストコフスキーダラウと同様、サー・アンドルーも若いころにオルガンを学び、オルガニストとして活動していたことがある……（増田）</p>

## ●室内楽／器楽曲

	<p><b>B.A.C.H.</b>          マルティン・フレスト (cl) 他          [Sony Classical (D) 19802814742 (海外盤)]</p> <p>♪新譜をリリースする度に新しい視点からの問題提起を続けているフレスト [...] 収録作品の大半はスローな曲で、その静かな音楽の佇まいはクラリネット「らしさ」からは遠い。だが……（後藤）</p> <p>♪スウェーデンのクラリネット奏者、マルティン・フレストの新作はバッハ。この楽器には一度も接しなかったと言われるバッハにフレストは何度も立ち返ってきたが、今回は静寂と耽美に満ちた全 17 トラック、41 分の小さなアルバムで再びあいまい見える……（西村）</p>
	<p><b>ハイドン／エルデーディ四重奏曲集（全6曲）</b>          カルテット・アロド          [エラート (D) 2173287521]</p> <p>♪カルテット・アロドは2013年に結成された弦楽四重奏団 [...] これまでにいくつかのCDをリリースしてきたが、今回は原点に戻ってという事で、ハイドンの弦楽四重奏曲の中の「エルデーディ四重奏曲」Op.76 の全 6 曲を録音した……（草野）</p> <p>♪最先端の潮流の元でこれほどの完成度を誇る録音を可能にしていることに驚かされた。今後本盤を超える競合盤は現れないのではないか。「推薦」の前に「超」を付けたいほどである [...] 彼らの主な特徴はこう書いてしまえば月並みになるが……（安田）</p>
	<p><b>J.S.バッハ／ソナタとパルティータ Vol.2</b>          ク里斯・シーリー (mand)          [ノンサッチャ (D) 7559789541]</p> <p>♪クリス・シーリーによるバッハの無伴奏ヴァイオリン作品の第2巻 [...] シーリーが弾くのは背中の丸いクラシックマンドリンではなく、ほぼ平らなフラットマンドリン。ブルーグラスやカントリーなど主にアメリカのポップスシーンで使われるものが……（那須田）</p> <p>♪聴いて驚く [...] これはフラットマンドリンへの偏見かもしれないが、いつも楽しそうにしたりしていたピエロ的なひとが、あるいは三枚目の人が、まじめに怒ったり、何か生死に関するような深い悲しみや喜びを湛えていたりしているさまを見てしまったかのような……（布施）</p>

	<p><b>Schnittke Clowns</b> 滝千春 (vn) 沼沢淑音 (p) [McClassics (D) MYCL00066] SACD ハイブリッド ♪シュニトケのヴァイオリン・ソナタ第1番や第2番、あるいは『きよしこの夜』の編曲などは [...] シュニトケが国際的に有名になり始めたころからディスクが存在した、代表作と言ってもよい作品たちだ [...] ヴァイオリン作品だけを集めたアルバムということになると、それほど多くはない…… (増田) ♪これまた、じつにすばらしい演奏である。ヴァイオリン・ソナタ第1番は、筆者の場合、元ボロディン弦楽四重奏団のドゥビンスキーアルバム [Chandos] を愛聴してきたが、作曲者と時代の空気を共有し、ロシア的な鬱屈と抑圧に富んでいた演奏に対して…… (満津岡)</p>
	<p><b>デュオ・リサイタル～ラヴェル&amp;フランク</b> 成田達輝 (vn) 萩原麻未 (p) [アルトゥス (D) ALT551] ♪ヴァイオリンの成田達輝とピアニストの萩原麻未は、ともに日本を代表する名演奏家 [...] いまや円熟期を迎えて、ますます充実した演奏活動を展開している [...] 意外なことに、これまでふたりの録音はリリースされていなかった…… (八木) ♪2024年2月22日、浜離宮朝日ホールでのライヴ。とりわけラヴェルの2曲のヴァイオリン・ソナタは、「最高」の名に値する名演である。冒頭のラヴェルの遺作、イ短調ソナタからして美の極みだ。フォーレの影響が色濃い若きラヴェルの旋律美と情熱の高揚が…… (芳岡)</p>

## ●鍵盤曲

	<p><b>シューベルト／4手のためのピアノ作品集</b> ベルトラン・シャマユ、レイフ・オヴェ・アンスネス (p) 4手連弾 [エラート (D) WPCS13881] SACD ハイブリッド ♪シューベルト最晩年の1828年に書かれた4手のためのピアノ作品に、当代の名手ベルトラン・シャマユとレイフ・オヴェ・アンスネスが臨んだ。緻密に磨き上げられた連弾が、推進力あふれる音楽へと突き抜けてゆく…… (飯田) ♪昨年の本誌10月号でレオーネ&amp;カンパネッラライタリア勢によるシューベルトの4手のピアノ曲集を紹介した。この録音は最初期と最晩年の『幻想曲』を対比させ、シューベルトが生涯に渡って抱いていた「幻想」の核心に手を届かせようとしていた。さらに彼らが [...] 予言した通りここにシャマユ&amp;アンスネスの録音が早速登場した…… (喜多尾)</p>
	<p><b>オーパス 109</b> ヴィッキングル・オラフソン (p) [グラモフォン (D) UCCG45131] ♪オラフソンは2023年にリリースしたアルバム『ゴルトベルク変奏曲』を携え、世界各国で100公演を超えるツアーを完遂した [...] 同アルバムは第67回グラミー賞受賞という成果もたらした。そうした尋常ならざる「ゴルトベルク体験」は…… (飯田) ♪ヴィッキングル・オラフソンの新譜は「OPUS 109」というタイトルのとおり、このベートーヴェン晩年の傑作に焦点を当てている。本盤を貫く物語には、おおきくふたつの核が見出されよう。まずはホ長調／ホ短調という調性のもつ感情の射程とその遍歴…… (新野見)</p>
	<p><b>ラフマニノフ：24の前奏曲</b> ジャン=バティスト・フォンリュプト (p) [La Dolce Volta (D) LDV128] ♪フォンリュプトは [...] ロシア音楽には精通していると思うが、今回のラフマニノフ『前奏曲』全曲では持ち前の驚異的なテクニックは勿論のこと、作曲者が祖国を想う内的な心情や激しい表出性も幅広く表現している…… (草野) ♪彼にとって [...] ラフマニノフの前奏曲集は、自身の技術と表現力を最大限にアピールできるものといえる。実際に本番はこの曲集の新たな決定盤といっても差し支えないほどの完成度を誇っている…… (長井)</p>
	<p><b>バロック・アンコールズ</b> ダヴィド・フレイ (p) [エラート (D) WPCS13880] SACD ハイブリッド ♪フレイは以前、バッハ『ゴルトベルク変奏曲』をリリースして以来のバロック作品の演奏で、内容は19曲のバッハを中心とした小品のピアノ編曲版やチェンバロからのピアノ演奏で綴られている…… (草野) ♪バッハやシューベルトなど、独塹の作曲家をレパートリーの中心とし、評価を受けてきたフランスのピアニスト、ダヴィド・フレイ。研ぎ澄まされた技巧、雄弁な表現力をあわせもつ彼はどんな作品も鮮やかに弾きこなすのだが…… (長井)</p>



## グッド・ナイト！ ベルトラン・シャマユ (p)

[エラート (D) WPCS28511] SACDハイブリッド

♪子守歌や眠りにまつわる作品を集めたプログラムというと、イージーリスニングを想像してしまう。ただベルトラン・シャマユのその響きを心地よく感じこそすれ、(退屈して) 眠り込んでしまうことはないだろう。まず構成の妙がある…… (新野見)

♪このところ脚光を浴びているフランス人ピアニストのシャマユの、面白い切り口のディスクである。ヤナーチェクの《おやすみ！》から始まる各作曲家の穏やかな“子守唄選集”で、マニアックな作曲家名が並び興味をそそる…… (野平)

## ●オペラ／声楽曲

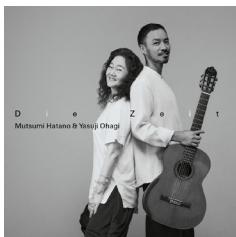


## オッフェンバックの歌姫たち

ヴェロニク・ジャンス (S) エルヴェ・ニケ指揮フランス国立ロワール管弦楽団、同合唱団  
[アルファ (D) NYCX10555]

♪日本では出世作の《天国と地獄》と遺作の《ホフマン物語》ばかりが有名なオッフェンバックだが、彼が一世を風靡したのは、実は第二帝政時代の繁栄するパリを映した多種多彩な作品群によってだった…… (小畠)

♪モーツアルトや、フランス・オペラを中心に世界の第一線の歌劇場で活躍してきたソプラノのジャンスは、数々のフランス歌曲やラモーのオペラなども次々に録音してきた。今回のアルバムのテーマは「オッフェンバック」…… (河野)



## 時 Die Zeit

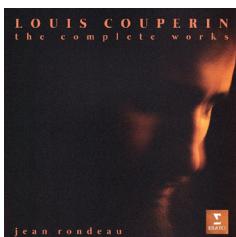
波多野睦美 (Ms) 大萩康司 (g)

[SONNET (D) MHS008]

♪波多野睦美はますます自由になる。もはやこの稀有な歌い手は、声種で定義できず、特定のレパートリーや時代にも結びつけられない。「歌手」という言葉さえどこか職業的に響き、やはり「歌い手」という呼び方がこの自由な音楽家にふさわしい…… (矢澤)

♪波多野睦美の歌唱と大萩康司のギター、そのデュオが生む親密で風通しの良さ、その微風の温かさにも薫る音楽の豊穣を(爽やかに!)満喫できる、秀逸なアルバムだ。その演奏を賛する前に、まず訳詞について触れるのは変かも知れないけれど…… (山野)

## ●音楽史



## ルイ・クープラン作品全集

ジャン・ロンドー (cemb·org) リュシル・ブーランジェ (gamb) ティボー・ルセル (テオルボ)  
リチャード・コンソート他

[エラート (D) 2173283719 (10枚組+DVD)]

♪とてつもないボックスがリリースされた。クープランの作品全集だが、大フランソワではなく、叔父のルイ。彼の活躍した17世紀は…… (那須田)

♪尖った、個色で染め上げられた「作品全集」の登場だ。1626年ルイ・クープラン生誕。その2年前に製作されたルッカース [...] のクラヴサンや1631年製作のオルガンなどを活かし、400年の時空を超えて、存在の大きさが知られるようになった音楽家と現代とを…… (美山)



## テレマン／ヴァイオリン協奏曲集

イザベル・ファウスト (vn) ベルリン古楽アカデミー (リーダー: ベルンハルト・フォルク) ウテ・ハルトヴィヒ (tp)

[ハルモニア・ムンディ (D) HMM902756F]

♪テレマンは天才的な作曲職人だ。その技量の多彩さに圧倒されるディスクである。冒頭に収録されているのは「序曲」口短調 [...] 第1楽章の序曲は通例通りフランス風の優雅で重々しい部分から始まる。バッハとは異なるたびたび立ち止まるような身ぶりに…… (布施)

♪テレマンの多彩な弦楽合奏曲を組み合わせ、彼の創意・愉悦・諧謔を存分に味わわせてくれる楽しい1枚である。冒頭の管弦楽組曲口短調は…… (芳岡)

## ●現代曲／ポスト・クラシカル



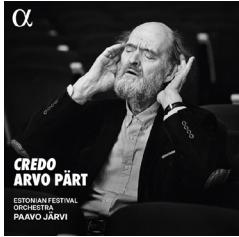
ベリオ: コーロ、ヴィト・ジュライ: オートマトーンズ

サイモン・ラトル指揮バイエルン放送交響楽団、バイエルン放送合唱団

[BR Klassik (D) 900650 (海外盤)]

♪ベリオの《コーロ》には作曲家本人の指揮による演奏など、これまでにも録音はあった。今回の録音では40の声部と44の楽器を対にして舞台上に並べるフォーメーションになっている [...] 作品に限りなく忠実で…… (白石)

♪ベリオによる第二の《シンフォニア》といえる大作《コーロ》(1976)の久しづりの録音が出た。しかもラトルとバイエルン放送響というのだから期待してしまうではないか [...] 楽曲全体は31の「エピソード」(断片)からなるのだが…… (沼野)



### アルヴォ・ペルト：クレド

パーヴォ・ヤルヴィ指揮エストニア祝祭管弦楽団、エストニア国立男声合唱団、カレ・ランダル (p)

[Alpha (D) ALPHA1158 (海外盤)]

♪『ラ・シンドーネ（トリノの聖骸布）』でスタートするが、エストニア祝祭管の弦楽セクションの厚みに富んだ響きに加え、鐘をはじめとする打楽器群のバランス感が秀逸……（満津岡）

♪本盤はペルトと深い親交を持つパーヴォ・ヤルヴィによる管弦楽作品集。有名な話だが、パーヴォの父ネーメが1968年に『クレド』を初演し当局に禁圧されたことが、以後の彼らの歩みに決定的な影響を及ぼしている……（矢澤）

※今月は「その他」の特選作品はございません。

### [2026年1月の新譜月評執筆者一覧]

※敬称略、五十音順

相場ひろ 飯田有抄 石原立教 石原勇太郎 小畠恒夫 岸純信 喜多尾道冬 城所孝吉 草野次郎 河野典子  
國土潤一 後藤洋 小宮正安 小室敬幸 白石美雪 鈴木淳史 長木誠司 長井進之介 那須田務 新野見卓也  
西村祐 沼野雄司 野平多美 広瀬大介 布施砂丘彦 舟木篤也 増田良介 満津岡信育 松平敬 水谷彰良  
美山良夫 八木宏之 矢澤孝樹 安田和信 谷戸基岩 山崎浩太郎 山野雄大 山之内正 芳岡正樹 鶴野彰子

## 【レコード芸術 ONLINE】

## 2025年12月15日～26年1月22日更新の記事一覧

※有料コンテンツを含みます

### 注目記事

【第1回 新レコード・アカデミー賞】大賞3賞発表！

【第1回 新レコード・アカデミー賞】特別部門／企画・制作発表 + 選定座談会

【第1回 新レコード・アカデミー賞】特別部門／配信発表

【第1回 新レコード・アカデミー賞】総評 + 結果発表リンク集

【クラシック・レコード2025回顧】プライヴェート・ベスト2025

その① | 伊熊よし子／片山杜秀／城所孝吉／小室敬幸

その② | 鈴木淳史／沼野雄司／東端哲也／布施砂丘彦

その③ | 松平敬／矢澤孝樹／山崎浩太郎／山之内正

【新連載】名演奏家再批評 File01 フルトヴェングラーを再批評する①～② | 新野見卓也

※③は1月23日、④は30日更新

レコード芸術ONLINE筆者の  
「推し盤」はこれだ！

### プライヴェート・ベスト2025

伊熊よし子 片山杜秀 城所孝吉 小室敬幸  
鈴木淳史 沼野雄司 東端哲也 布施砂丘彦  
松平敬 矢澤孝樹 山崎浩太郎 山之内正

(敬称略・五十音順)

レコード芸術ONLINE

レコード芸術ONLINE

金曜連載

名演奏家再批評

File01

フルトヴェングラーを  
再批評する

Text: 新野見卓也

【お知らせ】【有料会員限定】リーダーズ・チョイス 2025【サイン入り CD プレゼントも！】

※受付終了しています

【お知らせ】【2026年1月リリース予定】クラシック音楽新譜 発売情報

【お知らせ】「不滅の名盤」特設コーナーに、25点を追加しました！

【お知らせ】フリーマガジン第5号配布開始！

【お知らせ】「不滅の名盤」特設コーナーに、【臨時増刊】25点を追加しました！

【お知らせ】クラシック音楽 海外盤リリース情報（2026年1月）

【お知らせ】クラシック・データ資料館 更新遅延のお詫び

【2025年12月新譜月評】鍵盤曲、オペラ／声楽曲、音楽史、現代曲／ポスト・クラシカル、その他

【2026年1月新譜月評】オーケストラ曲、室内楽／器楽曲、鍵盤曲、オペラ／声楽曲

【最新盤レビュー】パーヴォ=DKAMのシューベルト全交響曲録音は「未完成」と「悲劇的」で幕を開ける！

| 堀朋平

【最新盤レビュー】リイシュー&BOX注目盤（12月）|編集部

【新・リマスター鑑定団】第3回【前編】ブーレーズ、ランバル、小澤征爾の最新リマスター盤を聴く

【新・リマスター鑑定団】第3回【後編】クレンペラー、ジュリーニの最新リマスター盤を聴く

【《指環》初演150周年】初演150周年記念プレ企画 ワーグナー《ニーベルングの指環》全四部作“聴破”講座

| 吉田真

【特別企画】逝ける音楽人を偲んで 2025年 | 編集部

【特別企画】アクセスランギング『レコード芸術 ONLINE』2025年10月～12月 | 編集部

【特別企画】《春の海》だけじゃない！宮城道雄にまつわるディスク5選 | 編集部

【特別企画】名前も長けりや、聴き応えもたっぷり（？） | 編集部

【連載】プレルーディウム 第16回 De morte transire ad vitam～死から生に移り行くよう | 船木篤也

【連載】トキヨー・モデュレーション 第15回 あらゆる種類の発話がグルグル移動する | 沼野雄司

【連載】トキヨー・モデュレーション 第16回 調子っぱずれの歌が18世紀と現代を貫通する | 沼野雄司

【連載】音符の向こう側 第15回 ワーグナーの《ヴェーゼンドンクの5つの詩》 | 城所孝吉

【連載】音符の向こう側 第16回 ダミーダミーダミー | 城所孝吉

【連載】週刊フィッシャー=ディースカウ Nr.44～45（最終回） | 吉田真

【レコ芸アーカイブ・特捜プロジェクト】ヨハン・ネポムク・フンメル | 濱田滋郎

【レコ芸アーカイブ・特捜プロジェクト】モートン・フェルドマン | 谷口昭弘

【レコ芸アーカイブ・柴田南雄の名連載】名演奏のディスコロジー 第1回（1976年1月号）ブーレーズのストラヴィンスキー《火の鳥》 | 柴田南雄

【レコード芸術 ONLINE 公式 SNS のご案内】

記事の更新情報などを発信しています♪

また、お読みになったご感想を、#レコード芸術 ONLINE を添えてぜひご投稿ください。



- ◎ 第1回 新レコード・アカデミー賞を発表！
- ◎ 人気連載の特別編を書き下ろして所収

THE RECORD GEIJUTSU <https://reco.ongakunotomo.co.jp/> [レコード芸術ONLINE] 編 音楽之友社

**レコード芸術 2026** ONTOMO MOOK

別冊付録 レコード・イヤーブック2026

**BEE1HOVEN**  
THE COMPLETE VIOLIN SONATAS  
Shunske Sato  
Shuann Chai

**MOZART REQUIEM**  
Pygmalion  
Raphael Pichon

**EXILE**  
Patricia Kopatchinskaja  
Thomas Kaufmann  
Camerata Bern

連載  
特別編  
書き下ろし

トキヨー・モデュレーション 沼野雄司  
ブルーディウム 舟木篤也  
音符の向こう側 城所孝吉  
ジョン・ウィルソン/井上道義/仲道郁代  
【インタビュー】秋山和慶

【出演】満津岡信育 (第1回 新レコード・アカデミー賞選考委員長) 他  
【日時】2026年2月8日 (日) 午後4時半開演  
【場所】タワーレコード渋谷店8F

TOWER CLASSICAL SHIBUYA

1ST NEW RECORD ACADEMY AWARDS

第1回  
新レコードアカデミー賞

新譜月評執筆者39名全員による「年間ベスト」から選ばれた最優秀ディスク  
(2024年10月号(創刊号)~2025年9月号新譜月評「推薦」盤および配信作品)

レコード芸術ONLINE 編

# レコード芸術2026

別冊付録：レコード・イヤーブック2026

定価2,750円 (本体2,500円)

ISBN978-4-276-96382-5

2026年1月29日発売



『レコード芸術2026』の詳細はこちらから♪

<https://www.ongakunotomo.co.jp/catalog/detail.php?id=963820>  
(音楽之友社の商品ページ)

## 【特報】

第1回 新レコード・アカデミー賞発表と、  
MOOK『レコード芸術2026』発売を記念しての  
トークイベント開催！

【出演】満津岡信育 (第1回 新レコード・アカデミー賞選考委員長) 他  
【日時】2026年2月8日 (日) 午後4時半開演

【場所】タワーレコード渋谷店8F

TOWER CLASSICAL SHIBUYA